

周年という。諏訪清陵魂と映画人魂と精進が続いている。

奇しくも、映画は来年が生誕100周年という。諏訪清陵魂と映画人魂と

# お、お、清陵会祭り

## 「東京清陵会」のスタート

会長 小 平 祐

一廻り大きな輪を目指して、東京清陵会がスタートした。又、母校の創立100周年もあと四〇〇日余りに迫った。

今は、長い歴史を顧み、新しい時代を見据える時である。言わば、今秋の総会は、東京清陵会発足記念祭であり、100周年前夜祭でもある。

幹事の方々のご活躍を期待している。

\*

女性会員が増えている。既に、全同窓会員の二五%、母校では生徒の四〇%が女性である。

今、100周年の諸行事は順調に進行している。その行事の目玉というべきビデオ「清水ヶ丘に歌う」を東京清陵会で一手に引受けている。

製作に当るのは、現代日本の映画界の最高スタッフであり、日夜を分たぬ

新副会長、女性役員、女性会員の皆さんの積極的な参画を期待したい。

女性会員が増えていた。既に、全同窓会員の二五%、母校では生徒の四〇%が女性である。

先般、本部に女性副会長、母校には女性学友会長が誕生した。地元では、女性が一步前に出たようだ。東京でも女性会員が一步前進してほしいものである。

ビデオ製作委員会の諸賢のご活躍と、会員の皆さんのご協力を切望して止まない。

—園窓会記録\*

## 同窓会(本部)副会長

淵 上 良 子 (56回)

の100年目の出合いであり、清陵一回生の岩波茂雄先輩と、パリの化学者、リュミエール氏との世紀の握手でもある。良心と技術が揃つて、後世に残る名作が出現するものと楽しみである。

よく働き、よく交わる。そんな人々の交歓の場である。このよきな故郷と友達をもつ私達は幸せだ。この清陵ムードは大切に育てたいと思う。

この豊かな里の縮図が、東京清陵会の集いだと思う。よく学び、よく遊び、よく働き、よく交わる。そんな人々の交歓の場である。このよきな故郷と友達をもつ私達は幸せだ。この清陵ムードは大切に育てたいと思う。

今秋の総会は、記念祭でもあり、前夜祭でもあって意義深い。「清水ヶ丘に歌う」の完成、女性の参画等の課題もあり、伝統的なムードも育てたい。

関係役員の諸賢と、全会員の皆さんのご活躍とご協力を心より念願して止まない。

全会員の皆さんの総会へのご協力を切望している。

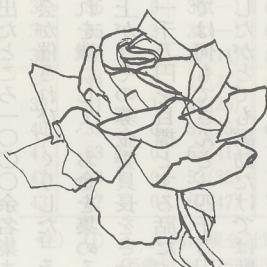
\*

## 第5号

編集・発行 清陵会学校  
東京清陵会東京高等支部  
諏訪窓会局 同務事  
〒270-11 我孫子市白山2-15-2  
林尚孝方 TEL 0471-83-2726

方紙等で大きく取り上げられました  
が、共学に向けての学校側の受け体  
制が十分でなかつたため、先生方も大  
変気を使つてくださいました。

私たち十四人の女子生徒は、共学な  
のだから特別扱いはしないでほしいと  
先生方に申し上げておりましたが、少  
ない女子をどのように学校行事(清陵  
祭、湖周マラソン等)に参加させるか、  
苦労もあつたようです。



## 女性も参加できる同窓会に――



同窓会(本部)副会長

淵 上 良 子 (56回)

諏訪の女子生徒は真冬にスカートなんかはいていなかつたと言つて、隣りでテレビを見ていた女房に、少し黙つていてください」と言われた」「諏訪弁はアクセントが変だつた」などと話題がはずみ、自分たちの青春時代を重ね合させて見てきたことがうかがわれました。

高齢の親の介護等、男女共生の時代と呼ばれてもまだ女性にとって壁は厚いのです。

でも、まあそんなことを言つていては解決になりません。母校の百周年を迎えるにあたつて、輝かしい伝統の中身を置いた一人として多くの先輩、後輩と語り合い、母校の更なる発展を期するため同窓会(特に支部全体)に集まりましょう。特に若い世代からの発言を期待します。

# 「東京清陵会」に寄せて 16氏座談会



ついて、よりユニークなものにするために、皆様にお集まり頂きお話し合いをして、お知恵を拝借したくこの会を催させて頂きました。

テーマとして  
一・諏訪清陵（諏中）についてそれをお持ちのイメージ。  
二・同窓会活動が活発（特に東京支部）になってきてる中で、これからどのようにしてもっと前向きに広げていったら良いか。

小平会長 支部会員も四〇〇〇名等を取り上げてお話し合っていたみたい。そこで、先輩諸兄より自己紹介を兼ねてすすめさせていただきます。



当時はユニークな先生が多く、地理の三沢勝衛先生など「昔を食べる」といって食べるとあたらない……（爆笑）など、今日のように良く天気予報があたる時代ではなかつたので……。まことに楽しかったものです。

阿木 本名は安達鉄翁と申します



となり時代も変つて清陵同窓会東京支部を「東京清陵会」と改称することが昨年の総会で認められました。会員の親睦と母校との関係を密接にする……：と会則にありますが、やはり親睦に重きをおき新しい「東京清陵会」の活動を活発にしてゆきたいと思います。また母校一〇〇周年（来年）は映画一〇〇年と時を同じくし、たまたま岩波茂雄先輩はその年に母校の一回生として入学された。記念のビデオ制作も東京清陵会が全面的に制作を任せられ大変意

山田 長地出身で二〇名足らず、



す。小五のとき父が亡くなつて、中学へは行けないと思つたが、姉が事務員になつて出してくれることになりました。五〇〇人受け一八〇人合格中一、二番だった。以来優等生街道からはずれしまつた。その時の一番は林百郎、二番が味噌屋をやつている宮坂水穂だった。

皆様方のお力であります。

小松会長 お話を通りで、山田会

毎日下諏訪まで歩いて汽車に乗り通学

してまいりました。帰りは運動したり長地小学校に寄つてテニスをしたり、お菓子屋に寄つて焼きや、今川焼きを食べたりしていました。毎日一〇kmほど歩いていたわけです。先輩からは「勉強なんかするもんじゃあない」といわ

りたいと思っており、教育学を専門として五五年間頑張つております。当時は定員二〇〇名だったのですが前の年は関東大震災があつて、東京からの疎開者が多かつた事もあり、上からの落第生が多く実際に一六〇名しか入れなかつた。競争率は四一五倍だつたと思います。

當時は天気予報、天気予報！といつて言われるようになつたが、我々もその時代ではなかつたので……。まことに樂しかったものです。

昔は同窓会など聞いたことがなかつたが、たまたま、八〇周年をやる、とのことで出たところ一〇〇〇余名集まり盛大に会が催されびっくりした。その時、それを機にして、お金を集める話が持ち上がりその募金委員長をさせられた。一千万円を目標とする話だったがそれでは何もできません、四千万円を目標にしたがとても諏訪だけでは駄目なので、東京の小口さん（会長）になつて出してくれることになりました。五〇〇人受け一八〇人合格中一、二番だった。以来優等生街道からはずれしまつた。その時の一番は林百郎、二番が味噌屋をやつしている宮坂水穂だった。

今では同窓会としては長野県でダントンで活発な活動をしている。ひとえに



引き続きまして、東京支部長及び本部の副会長をやつて頂いた岩波映画の小口会長にお願いします。

小口 中学時代はあまり自慢する

小松座長（副会長） 支部だよりに

私は五歳の時から教師にな

してまいりました。帰りは運動したり長地

小学校に寄つてテニスをしたり、お菓子屋に寄つて焼きや、今川焼きを

食べたりしていました。毎日一〇kmほ

ど歩いていたわけです。先輩からは「勉強なんかするもんじゃあない」といわ

れ、そんなもんか!?と思つていま

た。そんな五年間の生活が非常に楽し

りた。その後高等工業にゆき東京で

仕事に就いたが体をこわし田舎に戻り

かつた。その後高等工業にゆき東京で

終戦を迎えた。そこで地元に向いてい

るといわれた精密工業をおこし、今日

の発展を見たのです。東洋のスイスと

三井の級長をさせられました。父の買

つてくれた写真機に凝りだし科学会の

写真部などを引き受け、そのお陰で写

真の学校に入り、映画の世界に入る事

になりました。好きな事が一生やれた

事は幸せだと思います。一〇〇周年の

ビデオ作りについては一応、プロデュ

ーサーを命ぜられましたが幸い片野

氏、諏訪氏、宮坂氏他優秀な後輩がた

多くおられますので、私は名前だけと

いうことでお引き受けしております。

増澤 岡谷出身ですが仕事で下

は岡谷の家まで歩いて帰つたものでした。途中石投げ場などで休んでいろんな話をしたことが楽しかつたですね。





立」という点からは評価されてもいいと思います。

体験的に言つても、清陵は他から干渉されない「個の確立」ができた非常に良い学校であり、心に残る故郷です。そして……筵旗に表されたあのパンカラな、質実剛健といった清陵気質は今後も生き続けていってほしいものです。



横川 湖周マラソンでは学年でトップ、全体で六位くらいだったとおもいます。文化的なお仕事をされている皆様方が多い中につて、私は現実的な仕事をしております。現在グループで約一千店余を出しておりますが、その意味では故郷を感じる事が多くあります。私どもは当番幹事になつておりますから、このところ頻繁に集まつております関係で、同窓会に対する意識が高まつております。また、有志が集まつて将来やることがなくなつたらここで会社をつくることがあります。我々の年代はちょうど定年を間近にひかえ、自分の将来も含めてひとつの新しい時代に向けての自分のありかたを見直す時期ですから、それと絡めていろいろと感じる事が多くなりました。そんな時

にたまたま同窓会東京支部も「東京清陵会」と名前も変わったのですから、会報も新しい時代に向けていつたらどうか、ということもあって皆様にお集

まり願つた事ですから、いろいろなご意見を伺い「東京清陵会」の最初の会報がユニークなものになつてくれたらありがたいなあと思つております。

**生越 旧姓は水端と申しまして山**



田先輩と同期の三五回生・水端大五郎の娘でございます。女性は七人おり全て主婦になり、そして仕事を続けております。同窓会には東京に出て来てから四回欠席しただけ。皆を誘つてはいるのだけど、どんなことをしているのか聞かれても困つてしまつ。集まつて校歌を歌つて……誰もが「それだけ!」という。子供の手も離れてくると、会の後第二次会に誘つてほしい! と皆思つてゐる。毎年毎年後輩にも声をかけているのだが、新しく出てきた女性達にも声をかけて欲しいし、もつとどんどん出てもらうにはどうしたらいいのか、いつも頭を悩ませています。

現在は永田町の自民党本部の横で「せりよう」という和食の店を経営しております。お客様として深志のかたなど長野県のかたがたも多くいらしてくれるので、清陵の先輩の活躍しているのですが、清陵の先輩の活躍しているのですが、

**林秀幸 大学紛争の時代に高校に嬉しく思います。**



入つたのですが、清陵でも質実剛健とか、自治などが生きており、学友会の

活動に入ってきた校長を放送室に連れ込み、全校放送で祝明させた……事などを覚えております。清陵祭で何日も学校に泊まり込みダニに食われながら勉強そつちのけで準備した事など懐かしいですね。現在は雑誌の編集長を

していますが、「日経の記者です」といふと、構えられるのですが出身地の話をすると、諷訪ですか……なら清陵でかしいですね。現在は雑誌の編集長を

しまこと……などやはり清陵生だなどはないですか? とよく言われ氣が和みます。先輩がいろんな所で活躍されているんですね。非常にインパクトの強い方が多いんでしょうか? 最近ではNHKの「かりん」の後押しがあります。先輩が話がしやすいのですが、先して何かと話がしやすいのですが、先陵じやあないんではないか、なぜなら言葉も違つしあんな正直な人はそんなにいなかつたと思うが……」(爆笑)と言われた事があります。長野県人の多い我が社ですがOBが一人おりまして、どちらかといいますと諷訪らしくないふりをして、静かに頑張つています。

**小平会長 三井先輩・阿木先輩か**

ら若い西村さんまで約四〇年の間に流れているものは本当に質の高いものだ

と思います。この高い質の集団がただ親睦だけでなく……なにかもつと皆様の活動を生かすような事をしていったらどうかと考えます。講演会、勉強会などいろいろ考えられますが、財政的な事に関してもこれからお話し合いをしていただくと良いかと思います。

**座長 中学の数ある思い出の中で**

も、一番は日浅先生による英語の授業でした。その先生のお陰で独語・英語を学び今日があると思います。登校の道々英語を暗記したのでした。通信

しようと始めた事、男子の騎馬戦・棒倒しがすごいと思つたこと、清陵祭がいろいろとさせていただいています

が、長野県の中でも一目置かれるほど注目を集めている活発な会だと思つて

います。

**中村 「東京清陵会」と名前が変わ**

つたのでこれを機に会報を変えていつたら……とのみなさんのご要望もあつて、ではどう変えたらいいのか、内容についてとか、文字の大きさとかレイアウトの問題、さらに漫画なども取り入れていつたらどうか等々、皆様のご意見をお伺いしたい、またさらに総会についてももつと集まつて楽しい会にしてはいけないなと思っています。

**西村 清陵へは先輩だった中学の**

体育の先生の勧めで入りました。合格祝てくれた英語の辞書に「理想の花の咲かむまで」と書いてくれた意味が、入学してから判り嬉しかったです。女子は二〇名いました。在学中はニッポン放送の「オールナイトニッポン」に出て、高島城で「金色の民」を歌い全く

省から進駐軍勤めを始め以来一〇年後には改めてアメリカの大学に入つたりして今日に至つております。また、高

島学生団誌とか学友会誌を編纂させて

頂きました。清陵同窓会はながいことつていています。

考えもありますが皆さんは実際どう思つておられるかをお聞かせ願いたいです

ね。昨年は清陵が松商に勝つたという

ことで野球の貞をふやして一二頁にしました。

〔新制〕と旧制の会員構成比率はどうな

つていてるのか……(五分五分……事務局長談)長老! ? とははじめりやはり

ました。

総会は楽しく話し合える会になつてほ

しい。又、せつかく「かりん」のよくな番組があつたのでその制作に携わつた方に話をしてもらいうな会を……など、何かきづかけを作つて個別の活動が並行して行われるといつたような話が続いた。さらに西村さんより同業種間の先輩後輩の繁がりによつてもつと横の広がりができるようになつてほしいと発言あり。

**小松座長** (西村さんの話について)確かにそつですね、その意味で同窓会名簿はそついたことにもど

んどん利用してほしいと思います。ですが、引っ張つたり、引っ張られたりといつた助け合いが先輩後輩の関係に

置いて他と比べて少ないよな気もします。そついた意味ではそのような意見をどんどん寄せていただいて会報にのせてゆくといつたことも、大切か

と思います。

**林秀幸** 仕事でインタビューなど

の時に、政財界・出版広告界などと様々な分野で活躍されている諸先輩に

お会いしても何等怖くはないのです

が、同窓会の場でお会いすると凄く怖いのですね！(笑い) 要するに共通の

話題がすくないということですか、例

えば校舎の事一つ取つても旧校舎、新校舎そして今や新校舎になつてしまつている……といつたぐあいで五〇年前の話を聞いてもああそですか……

とそれでおしまいになつてしまふんですね。

**小松座長** 地域別にゴルフの会などしながら、田舎の話をし、お互いの交流を深めてゆくというふうな事もや

な番組があつたのでその制作に携わつた方に話をしてもらいうな会を……など、何かきづかけを作つて個別の活動が並行して行われるといつたような話が続いた。さらに西村さんより同業種間の先輩後輩の繁がりによつてもつと横の広がりができるようになつてほしいと発言あり。

**小松座長** (西村さんの話について)確かにそつですね、その意味で同窓会名簿はそついたことにもど

んどん利用してほしいと思います。ですが、引っ張つたり、引っ張られたりといつた助け合いが先輩後輩の関係に

置いて他と比べて少ないよな気もします。そついた意味ではそのような意見をどんどん寄せていただいて会報にのせてゆくといつたことも、大切か

と思います。

**林秀幸** 仕事でインタビューなど

の時に、政財界・出版広告界などと

様々な分野で活躍している諸先輩に

お会いしても何等怖くはないのです

が、同窓会の場でお会いすると凄く怖いのですね！(笑い) 要するに共通の

話題がすくないということですか、例

えば校舎の事一つ取つても旧校舎、新

校舎そして今や新校舎になつてしまつている……といつたぐあいで五〇年前の話を聞いてもああそですか……

とそれでおしまいになつてしまふんですね。

**小松座長** 地域別にゴルフの会などしながら、田舎の話をし、お互いの

交流を深めてゆくというふうな事もや

つてみましよう。そんな細かい事の積み上げが大切かと思いますね。

**生越** NHKの「かりん」の放映

にあたり女性が集まつて座談会をして

ほんとのことで第一回生の女生徒

(渕上さん)が皆に呼び掛けましたが結

とのことでした。そんな事があつたの

で総会にもできるだけの人(女性)に

声をかけて出席してもらうようにして

いるのですけど……。

**中村** 若い人が集まつてなにか会

合を開き話し合いをしてもらいたい

し、それを会報などに取り上げていつ

てもいいと思います。

**林事務局長** 同窓会名簿の発行に

ついては、来年は本部で厚い五千円ほ

どのものを出しますが、申込も五千人

いるとか。東京清陵会も実は内容がだ

いぶ変わつてきているので、消息が摑

みにくくなつてきており新しいのに作

り替えなくてはと思つております。本

部の発行の間に合わせて五年に一回位

がいいのかどうか、皆さんはどう思つ

ていらっしゃいますか。

**入早川** 会報は、先輩諸氏の持つて

いる貴重な思い出とか財産がいっぱい

あるのでそういうものを若い人達に

伝えていくといつた使命もあると思い

ます。また、逆に若い人達の持つてい

る考え方などを取り上げてゆきたい。こ

れは年に一回と限られた紙面の中では

大変難しいことですが分科会などをど

んどん開いてそれらの報告を載せてゆ

くといった部分もあるかとおもいま

す。本日は会報だけに限つたことでな

く、東京清陵会そのもの自体がどうい

うふうになつていつたらいいか……と

いった内容で話し合いが進んでいると

とらえいいかとおもいます。

**金子** 大学にいる事が多かつたものから後輩はもとより、二葉出身の人も含めて、同郷の人と接することが多いのですが、いろいろと話し合つて相談にのつたりしていると、よく清陵のことが話題にのぼります。またそこから現在やつている仕事とか、勉強の事とかに話が進んでいくと色々具体的な同窓といふことを機にいろいろな活動がはじまつてきました。

**小平会長** 同窓会というものはた

いへんなことで、毎年毎年幹事さんに

は苦労してもらつていますが、そんななかで、最大公約数をなんとか摑まえ

て少しでも集約してゆくよな努力を

してゆかねばならないとおもいます。

**阿木** 入学してからも、二年にな

つたら止めようやめようとしないながら

五年たつてしまつた。そして、自分は

小学生、中学校しか出ていないので同

窓会は大切にしていますし、大好きで

して少しだけ集約してゆくよな努力を

してゆかねばならないとおもいます。

**増澤** 昭和一〇年に入り、一五年

に卒業という戦争の前だつたのです

が、自由な雰囲気が残つており私の方

生の中では一番いい時期でした。特に

そこで良い友達に巡りあえたことが有

意義でした。「人生は旅、旅の妙味は人

との出会いにある」といわれますが、

今にしてそれを実感しています。

**生越** 清陵祭のときには絵のモデ

ルとか英語劇など引つ張り派でした。

スポーツをしたくて卓球部に入つたの

ですが三年間で相手をしてもらつたの

が三回だけ。それでも欠席せずクラブ

に通いました。清陵は「意地と懐かし

くまで残され説教されたり、校歌を覚

えてみましよう。そんな細かい事の積み上げが大切かと思いますね。

**生越** NHKの「かりん」の放映

にあたり女性が集まつて座談会をして

ほんとのことで第一回生の女生徒

(渕上さん)が皆に呼び掛けましたが結

とのことでした。そんな事があつたの

で総会にもできるだけの人(女性)に

声をかけて出席してもらうようにして

いるのですけど……。

**中村** 若い人が集まつてなにか会

合を開き話し合いをしてもらいたい

し、それを会報などに取り上げていつ

てもいいと思います。

**林事務局長** 校歌といふと、古山

か、北側は寒いから板で塞いであると

校舎が大変傷んでいたことですね。窓

枠にはガラス戸が嵌まつていてないと

とらえいいかとおもいます。

**金子** 大学にいる事が多かつたも

のですから後輩はもとより、二葉出身

の人も含めて、同郷の人と接すること

が多いのですが、いろいろと話し合つ

て相談にのつたりしていると、よく清

陵のことが話題にのぼります。また

そこから現在やつている仕事とか、勉

強の事とかに話が進んでいくとそこか

ら具体的な同窓といふことを機にいろ

いろな活動がはじまつてきました。

**小平会長** 同窓会といふものはた

いへんなことで、毎年毎年幹事さんに

は苦労してもらつていますが、そんな

なかで、最大公約数をなんとか摑まえ

て少しでも集約してゆくよな努力を

してゆかねばならないとおもいます。

**阿木** 入学してからも、二年にな

つたら止めようやめようとしないながら

五年たつてしまつた。そして、自分は



## 第一七回東京支部総会報告

篠原 健(60回)

昨年十月二十二日、神宮の日本青年館にて東京支部二十七回の総会が開催された。今回の総会のメイン・テーマは三つ。一つは東京支部の名称・会則の変更であり、もう一つは折からNHKで放映が始まった、母校を舞台とするドラマ「かりん」についての話題であった。

前者については、東京支部の活動を活性化することによって同窓会全体をさらに発展させて行きたいという趣旨から、名称を「東京清陵会」と改称し、

斗樽の鏡割りを最年長者古山主一郎氏(92歳)と女性最年少の小池久美子氏(84歳)にお願いし、小松副支部長(42回)の音頭による乾杯で開宴となつた。途中昨年六月の本部総会で行われた宇宙飛行士毛利衛さんの講演の模様が宮沢政文氏(60回)からスライドを用いて報告された。毎回ながら歓談はつきない状況であったが、第一・第二校歌斉唱、次年度当番幹事(61回)の力強い閉会挨拶でお開きとなつた。

われわれ当番幹事(60回)は一年にわたつて準備を進めてきたとはいっても放映に至つた経緯、裏話の披露があつた。岡谷市民新聞「かりん特集」も配布され、しばらくはなつかしき諺訪の話題で盛りあがつた。

さて総会は当番幹事挨拶の後、昨年以來物故された三十四名の方々のご冥福を祈つて黙禱。引き続き小平支部長より東京支部名称・会則変更の提案を含め、挨拶があつた。来賓の小菅同窓会長からは母校創立百周年記念事業

について紹介があつた。行事の一つである中国への旅にはすでに二百名を超えた申込みがある由である。持田学校長からは母校の活躍の状況が伝えられたが、期待された野球部が県予選で敗退したのは残念であった。林事務局長の会務報告、名称・会則変更の承認、会計監査報告承認と統いて総会を終了した。

懇親会は宮坂醸造寄贈の「真澄」四十九年長者古山主一郎氏(92歳)と女性最年少の小池久美子氏(84歳)にお願いし、小松副支部長(42回)の音頭による乾杯で開宴となつた。

途中美人六月の本部総会で行われた宇

宙飛行士毛利衛さんの講演の模様が宮

沢政文氏(60回)からスライドを用いて報告された。毎回ながら歓談はつきない状況であったが、第一・第二校歌斉唱、次年度当番幹事(61回)の力強い閉会挨拶でお開きとなつた。

われわれ当番幹事(60回)は一年に

わたくして準備を進めてきたとはいっても不安と緊張の一日であったが、無事総会を終了できた喜びに加え、諸準備の中で卒業以来三十数年ぶりに再会して

移し最長老九十五歳の古村敏章氏(十

回生)を選出した。

懇親会は「ごんどうの間」に会場を

移し最長老九十五歳の古村敏章氏(十

回生)の発声で一気に盛り上がり、

つきぬ懇談が続いた。

テレビにおける報道番組の変遷から

現在担当している「小さな旅」にまつわる苦労話まで、豊かな体験を基に日頃知ることのないブラウン管の向こうの興味ある話を披露して頂いた。今後の名取アナウンサーの益々の活躍を祈るものである。

懇親会は「ごんどうの間」に会場を

移し最長老九十五歳の古村敏章氏(十

回生)の発声で一気に盛り上がり、

つきぬ懇談が続いた。



## 平成六年度本部定期総会報告

武田吉清(61回)

創立百周年を来年に控えた平成六年度の定期総会は平成六年六月二十六日、諏訪市橋場会館にて開催された。

小平祐副会長(東京都杉並区、四十二回生)、宮坂久臣副会長(岡谷市、四十四回生)、井上彦次監事(諏訪市、四十四回生)は、それぞれ再任された。

総会は恒例により物故者への黙禱か

ら始まった。当番幹事の六十一回生は

この半年の間に三名の仲間を失つた特

別の思いをこめて冥福を祈つた。

完全復調された小菅同窓会長からは百周年記念事業にかける、並々ならぬ決意が披露された。

また女性会員の同窓会活動への積極的参加の呼びかけがあつた。

持田校長先生からはご自身まさに画

龍点睛の年を迎える力を強いご挨拶をいただいた。

会場舞台には特大の「博浪の碑」の

拓本の掛軸が掲げられ、一方総会の様子は百周年ビデオ製作クルーによる取材が行われ、雰囲気が盛り上がつた。

会場舞台には特大の「博浪の碑」の

拓本の掛けられ、一方総会の様

子は百周年ビデオ製作クルーによる取

材が行われ、雰囲気が盛り上がつた。

議事のうち百周年記念事業の中間報告については詳細は別項に譲るとして、中国原陽県博浪沙公園に訪中記念として桜の植樹・公園建設への協力を記念事業として位置づけ、百五十万円を補正予算に計上する、等々盛り沢山の行事の中間報告が行なわれた。

女子会員が同窓会活動に参加しやすい体制を目指し会則変更で女性副会長の常設を議決し、役員改選では、副会

長に女子一期生の淵上良子氏(五十六回生)を選出した。

懇親会は「ごんどうの間」に会場を

移し最長老九十五歳の古村敏章氏(十

回生)の発声で一気に盛り上がり、

つきぬ懇談が続いた。

テレビにおける報道番組の変遷から

現在担当している「小さな旅」にまつわる苦労話まで、豊かな体験を基に日頃知ることのないブラウン管の向こうの興味ある話を披露して頂いた。今後の名取アナウンサーの益々の活躍を祈るものである。

懇親会は「ごんどうの間」に会場を

移し最長老九十五歳の古村敏章氏(十

回生)の発声で一気に盛り上がり、

つきぬ懇談が続いた。





# 「百周年記念ビデオ制作中間報告」

片野 満 (56回)

ビデオ制作ロケーション日程

一〇月二三日 (湖周マラソン)

二月四日 (冬の情景)

三月八日 (卒業式)

三月二二日 (合格発表)

四月五六日 (入学式)

七月一五—七日 (清陵祭など)

四月九日 (東京座談会)

四月二二日 (桜/鯉幟/農作業点描)

五月一四—五日 (箱根同年会56回生)

六月二四—五日 (郷里座談会・総会ほか)

八月二二日 (卒業式)

九月二二日 (入学式)

十月二二日 (清陵祭など)

雨と雨の間を縫うような昨年七月の清陵祭とは対照的に、カラカラ天気の猛暑に見舞われた今年の清陵祭ロケで、百周年記念ビデオの取材も丁度一年を経過しました。昨年は、最初の清陵祭ロケに統いて八月のクラスマッチ、九月の端艇大会、それに十月の湖周マラソンまで。今年に入っては、冬の情景から授業風景、卒業式・入試発表

表、入学式・対面式、五月の学校生活点描、部活、東京と郷里の座談会、諏訪市博物館、同図書館、同窓会総会、そして今年第四回の清陵祭のロケをつい先日無事終了して来たところです。

作品の大きなテーマを、清水ヶ丘で共有した「青春の感動」としてとらえ、共通の母校への想いを「校歌」に託し、百年という年輪の軌跡を、現在に生きる生徒たちの青春群像とのダブルイメージで描き出すべく、かくも頻繁な母校訪問、郷里の風物取材となつた次第です。

取材テーマ (一本三〇分) も撮り重ねること七〇本。ロケハンを兼ねた昨年はともかく、今年に入つてからはほぼ月一回ロケのペースとなり、ロケとロケの間は、膨大な量のテーマの整理と編集に明け暮れています。でも材料さえ多ければそれでいいというものではありません。多くの方々のご協力を得て記録された貴重な映像と音声の数々を、いかに精選し、限られた長



## 還暦記念 「互励の旅」刊行

清陵五〇回生 (互励会) のわれわれは、小・中・高を通じて戦時・戦後の悪事情ゆえに、遂に修学旅行というものを体験できなかつた世代。昔日の無念を晴らそうと、一昨年秋、一同の還

暦を機に、在京・在諏有志で伊東温泉に一泊、翌日は熱海・箱根を巡遊するバス旅行を催した。大型バス二台に満杯の参加で大いに盛り上がりながら、その折「俺たちも人生の節目に立つた、ここで文集でもつくってみよう」ということになつた。

さの中に、最大限のメッセージとして送り込んでいつたらよいのか……

物理的な取材は峰を越した感がありますが、来年の五月完成まで、まだまだ山あり谷ありの日々が続きます。仕上がり分数は当初の予想を大幅に超えそうですが、領布価格は三八〇〇円……というわけで、より多くの方々に喜んでもらいたいのです。

わざわざ五〇回生は、このデカくて重たい本をいつも座右に置き、日々置いて眺めては楽しんでいます。

こんな本であるから、同窓各位にご購読をお勧めするというのもないが、もし興味を持たれる向きは、左記にご連絡下されば若干の残部はあるはずである。

(50回寺島)

られた宮坂亮一君 (在諏) は、単なる作文集に終わらせず、当時の清陵新聞、

同窓生各位のご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

生の生い立ちのアルバムからの写真、

## 清陵勉強会へのお誘い

一九八九年の東欧革命から始まり、ドイツ統一・ソ連の崩壊、中国の天安門事件、更には湾岸戦争と国際情勢は目まぐるしく動いた。一方、国内経済ではバブルが弾け、政治においては五年体制が崩れるなど、激動の五年間となつた。里の風景

国民国家か多民族国家か」・「日米関係は何故こうもうまくいかないのか」・「ドイツ統一の一側面——労働組合の統一はどうなる」・「三沢勝衛先生の思い出」・「バクダッドから帰つて——湾岸戦争取材記」・「中国の第八次五年計画と経済改革の見通

トドは姿形はよくないが、その肉はビタミンC豊富でコレステロールは少なく、意外にサッパリしていてうまい。「ただ、団体はデカいが一頭から味のいい部分は僅かしか取れない上に最近は獵が減つた」と板長はボヤく。電話を一本入れてから出かけユーは豊富、板長自ら毎朝魚河岸で新鮮なネタを仕事の諏訪の「真澄」、時に高遠の「黒松仙醸」があることてくれるのが嬉しい。郷里茅野から取り寄せるとか

湯島天神の近く。いつも和服でキメている美女「キヨウちゃん」が出迎えてくれる。階段を地下へ降りると、一〇人も座れば満員の椅子席と、その隣に穴巣のような座敷があつてくつろげる。場所柄、東大の先生方や学生も多うが、早大エジプト考古学の吉村作治先生もご常連とか。

また五味さんの顔の広いこと、特に同窓生の消息に詳しい。清陵OBの梁山泊になるのも当然か。酔う程に諷訪弁丸出しで会話も酒もはずむ。どうも

本多新一  
文京区湯島二一三一一七〇三一  
の本多新一  
七時一一一時三〇

そうした最中の一九九〇年一月、同窓生三人（五〇回宮坂弘作氏・中村平治氏・五七回岩垂弘氏）が「お互い不勉強だなあ。これでは時代の変化について行けなくなる。もっと広い視野から勉強せねば」という認識で一致し発起人となつて、清陵OBを中心とした勉強会を継続的に開いて行こう、ということになつた。

講師は各界で活躍中の清陵OBにおいて願いすることとし、第一回は一九九〇年二月二〇日に行われた。

「歴史遺産を地域で生かす」・「米（ヨメ）の開国を巡つて」・「海から見た地  
球環境」等々となつてゐる。

以来四年余、二カ月に一回のペースで開かれ、本年八月三〇日には二八回目を迎えた。会場は五七回生の五味敏雄氏が勤務する、水道橋駅前の燐三省堂の会議室をお借りし、毎回二〇一三

内輪の集まりということで、講師はノーギヤラ、のみならず遠方から来ていただく交通費も自前、二次会の飲代がタダになるだけという、誠に申し訳ない形で実施している。

○名のメンバーが集まり、様々な分野で活躍する、同窓の講師の話に堪能し

現在約六〇名の会員がいて、隔月の開催を楽しみにしている。決して閉鎖

近の居酒屋に移しての二次会も、毎度  
の築きみである。

的なサロンではないが、会場の収容人員に限りがあるので、出席ご希望の方は、事務局（☎〇三一三五七二一〇三

の樂しみである

○一 矢崎悦郎(五九回)までお申出下さい。

# レストラン割烹 セハリョウ

地下鉄 永田町3番出口(歩30秒) 至三宅坂  
至赤坂見附

添え物の葉っぱ…  
上諏訪の東家の庭より直送。  
ふきのとうひ木贈みえ。



## お店探訪① 「明日香」の巻

## 現役清陵生はいま・女子学友会長に聞く

「憧れの清陵へ入れた時は大変嬉しかった。学友会長になるなんて、私自身も思っていませんでした。でも投票してみたら私は四〇〇票余り、相手の男子生徒に一〇〇票くらい、これはやらなければという気持ちと同時に、私への批判票が、一〇〇票あったのだといふことを忘れてはならないと思いまし

た」

○運営する上での困難はありませんか?



と語る竹内志帆さん(茅野出身、九回生)、母校清陵高校で初めて誕生した女子の学友会長である。清陵祭二日目の七月二六日、忙しい中インタビューに応じてくれた。

十数年前から行われている「中間選

挙」とよばれる候補者選出の一人に選ばれ、本投票で学友会長に選出された。

○女子が学友会長になることについて周囲の反応は?

「学校側や同窓会の一部から反対意見がありました。女子に何が出来るんだというような。でも女子生徒が四割を占めている現在不思議ではないし、今時女子だ男子だなどという時代ではないと思います」

○ご両親は?

「父は清陵の出身で今はごく普通の勤め人ですが、在学中は学友会の活動に余り熱心ではなかったようで、私が学友会長に決つたと知つた時は大分驚いたようです。でも父も二葉出身の母も反対はしませんでした」

「一〇〇年の自治の伝統は……様々な清陵生の個性によって支えられて来たものだろう……だから個性が強いからといって、価値観がちがうからといって……皆で『清陵祭』を一つにまとめて上げることは決して難しいことはない……」



清陵祭ファイアーストーム

東京清陵会の現況  
(一九九四・七・二十五現在)

一、同窓会東京清陵会会員の定義  
データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおり。

(1) 首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城)在住の同窓生(ただし、退会申入れ者を除く)。

(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。

二、会員現勢・総数 四、二七七名(住所不明者二〇七名を除く)

(1) 都県別会員数 内訳 東京都二二三六名 神奈川県八七二名 埼玉県二

別表1 年次別会員数と会費納入結果(7月25日現在)

回	現員	不明	計(費)	回	現員	不明	計(費)	回	現員	不明	計(費)
17	1	0	1(一)	44	67	0	67(37)	73	53	12	65(10)
18	2	0	2(一)	45	63	0	63(35)	74	85	6	91(18)
19	1	0	1(一)	46	82	0	82(43)	75	51	8	59(5)
20	1	0	1(一)	47	83	1	84(49)	76	44	6	50(4)
21	6	0	6(一)	48	85	1	86(42)	77	57	8	65(11)
22	3	0	3(一)	49	127	1	128(54)	78	56	9	65(8)
23	7	0	7(一)	50	103	4	107(54)	79	54	10	64(8)
24	2	0	2(一)	51	119	1	120(59)	80	43	8	51(3)
25	10	1	11(一)	52	130	2	132(65)	81	52	10	62(4)
26	8	1	9(一)	55	36	0	36(17)	82	48	5	53(4)
27	11	0	11(一)	56	124	5	129(58)	83	76	15	91(17)
28	28	0	28(一)	57	129	3	132(62)	84	57	1	58(1)
29	11	0	11(一)	58	119	2	121(59)	85	69	7	76(4)
30	19	0	19(一)	59	116	4	120(50)	86	46	1	47(0)
31	21	0	21(一)	60	126	1	127(67)	87	36	0	36(0)
32	25	4	29(一)	61	117	2	119(46)	88	37	0	37(1)
33	29	0	29(一)	62	116	2	118(34)	89	38	1	39(0)
34	30	0	30(一)	63	115	6	121(44)	90	31	0	31(0)
35	36	0	36(一)	64	98	1	99(35)	91	27	0	27(0)
36	35	3	38(一)	65	77	5	82(20)	92	18	0	18(0)
37	26	1	27(11)	66	92	5	97(29)	93	10	0	10(0)
38	44	0	44(27)	67	97	6	103(17)	94	5	0	5(0)
39	41	1	42(26)	68	95	5	100(20)	95	5	0	5(0)
40	37	0	37(25)	69	95	5	100(28)	96	10	0	10(0)
41	63	0	63(41)	70	103	6	109(22)	97	2	0	2(0)
42	53	0	53(35)	71	70	12	82(17)	4271(207)	(1388)		
43	67	0	67(47)	72	60	9	69(13)				

注) ① ( ) 内は現会計期(1992.4~1997.3)会費納入者の人数  
75歳以上(36回以前)の会員は会費免除

② 不明者は以前東京支部に登録されていて現在所在不明のもの

③ 前会計期(1987.4~1992.3)は1992年3月で終了

④ 現会計期納入人数1,388名と納入者数1,381名の差は前納者7名分の差

別表2 年度別納入額および納入者数

前期納入額総計(1987.1~1992.3)		5,993,670円		
内訳	~1987年4月	小計	70,000円	(7名)
	1987年4月~	小計	3,378,200円	(1,111名)
	1988年4月~	小計	342,000円	(110名)
	1989年4月~	小計	43,600円	(9名)
	1990年4月~	小計	1,247,285円	(435名)
	1991年4月~	小計	912,585円	(170名)
今期納入額総計(1992.4~1997.3)		6,487,185円		
内訳	1992年4月~	小計	4,351,185円	(1,021名)
	1993年4月~	小計	2,094,000円	(353名)
	1994年4月~	小計	42,000円	(7名)

## 計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

氏名	年次	逝去年月日
林 正二	(31回)	1992.9.4
酒井 健二	(26回)	1992.10.11
秋山 憲夫	(22回)	1992.12.4
今井 退藏	(23回)	1992.12.27
中村 勇	(31回)	1993.2.8
吉田 真六	(34回)	1993.2.16
雨宮 洋子	(69回)	1993.4.5
岡田 義人	(36回)	1993.4.13
三輪 敦	(46回)	1993.4.23
増沢 慶次	(32回)	1993.4.27
高波 繁	(21回)	1993.5.29
浜 正一	(35回)	1993.6.12
山崎 篤巳	(60回)	1993.8.21
佐野 千曲	(29回)	1993.9.4
阿部 文彦	(56回)	1993.9.19
甲田 和衛	(38回)	1993.9.24
矢崎 寅雄	(29回)	1993.9.25
原 善四郎	(40回)	1993.10.28
飯森 玄	(60回)	1993.11.3
清水 久吾	(32回)	1993.11.8
林 要一郎	(22回)	1993.12.18
神沢 亮一	(50回)	1993.12.21
小林 金市	(25回)	1993.12.23
波多野 浩	(30回)	1993.12.23
武井 徳吉	(61回)	1994.1.3
高木 邦夫	(28回)	1994.1.29
林 市蔵	(33回)	1994.2.8
田村 邦夫	(52回)	1994.2.9
進藤 桂吉	(52回)	1994.3.4
山田 卓蔵	(51回)	1994.3.18
岩本 一二	(29回)	1994.3.29
細川 宗英	(49回)	1994.4.30
荻原 晃	(61回)	1994.5.6
矢澤 大二	(32回)	1994.5.29
田中 武男	(32回)	1994.6.11

(事務局に連絡が入った方)

会館。

- （1） 納入者総計 一、三八一名  
 （2） 年次別会費納入者数（別表1）  
 （3） 年度別納入額および人数（別表2）

- （2） 年次別会員数（別表1）  
 九九七・三会計期  
 他五三名

- 三、会費納入状況（一九九一・四）  
 一、会員登録状況（一九九一・四）  
 二、会員登録状況（一九九一・四）

- 四五七名 千葉県五一名  
 茨城県八三名 群馬県二二  
 七名 栃木県三一名 その他  
 他五三名

- 二・四 編集委員会。  
 二・五 長野県同窓連。  
 二・一〇 ビデオ制作委員会、予約  
 特価三千八百円を決定。

- 三・一六 事務打合会議、編集と総  
 会、飯田橋会館ロビー。  
 四・二三 百年史編集委員会。  
 五・二四 東京清陵会だより五号

- 六・二一 東京清陵会だより五号  
 編集会議。

- 六・二六 同窓会定期総会および  
 懇親会、橋場会館、約一五〇名。  
 記念講演NHKチーフアナウンサー  
 名取将氏（六〇回）“テレビと私”、初  
 めての女性副会長として淵上良子さん  
 （五六回）を選出。

- 七・九 長野県同窓連総会。

- 七・二一 東京清陵会だより五号  
 編集会議。

- 七・二三 百年史編集委員会。  
 七・二六 常任幹事会 南青山会  
 館、事業報告・予決算案、総会などに  
 ついて審議、一六名。

- 会務報告  
 一九九三年

- 一〇・四 総会運営打合せ。  
 一〇・二二 第二七回東京支部総  
 会。午後六時から日本青年館四階東洋  
 軒にて開催。出席二十四名。

- 一一・二二 ビデオ制作委員会。  
 一二・二二 事務局会議、せいりょ  
 うにて次年度事業計画、七名。

## 平成5年度収支決算報告（案）

自平成5年4月1日 至平成6年3月31日 (単位：円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
総会員会年付	1,652,000	総会費	1,743,075
寄受幹名前	2,090,400	諸旅費	231,345
取事簿期	50,000	会通印	17,000
	228,505	刷事務	335,761
	17,000	雜費	126,690
	363,500	行費	308,000
	14,678,672	支部だより	258,370
		事務用パソコン	20,600
		次期	16,039,236
計	19,080,077	計	19,080,077

## 創立百周年特別会計収支報告（案）

自平成4年4月1日 至平成6年3月31日<sup>1)</sup> (単位：円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
収入(本部より)	4,000,000	制作委員会費用	70,275 <sup>2)</sup>
預金利息	1,417	ビデオ制作振込期手續	3,900,000 <sup>3)</sup>
		会前渡金	1,442
		料金	29,700 <sup>4)</sup>
計	4,001,417	計	4,001,417

- 注 1) 収支報告書は累計にて計算  
 2) 主として会議費  
 3) 岩波映像販売㈱に支払  
 4) さくら銀行水道橋支店に預金

- ◆会の名称変更に伴い、会報の題字を、  
 小口横三氏（三六回、元東京支部長）  
 に揮毫していただきた。四号までの題  
 字は五六回生の渡部清氏の筆によるも  
 のだが、それぞれに風格のある字であ  
 る。両氏に厚く御礼申し上げる。

- ◆毎年のことだが、準備のために当番  
 幹事の諸君が大奮闘してくれた。今年  
 は六回生、ご苦労様でした。

- ◆今后ともこの会報を更に親しみのあ  
 る、読み易いものにするべく一層の努  
 力をしたい。ご意見、ご要望をお寄せ  
 いただければ幸いである。

- 会務報告  
 一九九四年

- （1） 納入者総計 一、三八一名  
 （2） 年次別会費納入者数（別表1）  
 （3） 年度別納入額および人数（別表2）

- （2） 年次別会員数（別表1）  
 九九七・三会計期  
 他五三名

- 1994年9月20日(火) (12)

- 四五七名 千葉県五一名  
 茨城県八三名 群馬県二二  
 七名 栃木県三一名 その他  
 他五三名

- 三・一六 事務打合会議、編集と総  
 会、飯田橋会館ロビー。

- 二・五 長野県同窓連。

- 二・一〇 ビデオ制作委員会、予約  
 特価三千八百円を決定。

- 三・一六 事務打合会議、編集と総  
 会、飯田橋会館ロビー。

- 四・二三 百年史編集委員会。

- 五・二四 東京清陵会だより五号

- 六・二一 東京清陵会だより五号  
 編集会議。

- 六・二六 同窓会定期総会および  
 懇親会、橋場会館、約一五〇名。

- 七・九 長野県同窓連総会。

- 七・二一 東京清陵会だより五号  
 編集会議。

- 七・二三 百年史編集委員会。  
 七・二六 常任幹事会 南青山会  
 館、事業報告・予決算案、総会などに  
 ついて審議、一六名。

- ◆初の試みとして、同窓生の経営する  
 ちょっと変わったお店を知らせるカコミ  
 記事を掲載した。これは今後シリーズ  
 化したいと考えている。業種は問わな  
 いが、面白い店をご存じの向きはご一  
 謝下されば取材の上紙面に紹介した  
 い。ご協力を乞う。

- ◆一〇月二一日（金）の東京清陵会總  
 会には多くの会員がふるつて参加され  
 たい。久しぶりでかつての学友、ワン  
 パク仲間との旧交を温めようではない  
 か。なお当日は、TVドラマ「かりん」  
 に主演した女優の細川直美さんも出席  
 し、挨拶をしてくれる予定。また、本  
 格的な木遣唄が披露される。